

中華人民共和國
黑龍江省国营農場典型区
農業綜合開發計画調査

第一次現地調査

協議議事録

1993年10月

日本国国際協力事業団
中華人民共和國黑龍江省国营農場総局

黒龍江省国営農場典型区農業総合開発計画調査

第一次現地調査に係る協議

議事録

黒龍江省国営農場典型区農業総合開発計画実施調査団（以下調査団と言う）は、1992年9月18日に署名された本件実施に係る実施細則及び協議議事録に基づいて、調査作業を担当する黒龍江省国営農場総局に現地調査報告書（1）を提出し、10月3日に、現地調査報告書（1）の内容について説明した。また、典型区候補地の選定と実施細則に基づく現場調査の補足ならびに継続観測に係わる協議を行った。協議の中で日中双方が確認した主要事項は以下の通りである。

1. 中国側は現地調査報告書（1）の内容、開発の基本方針ならびに開発戦略の構想について、基本的に同意した。
2. 典型区候補地について次の地区を選定し、双方はこれを合意した。
 - (1) 濃江農場：第1作業区（場部の在位地区）ならびに第10作業区
 - (2) 友誼農場：第4分場
3. 調査団は現地調査の補足作業として次の作業を国営農場総局に依頼した。
 - (1) 濃江農場及び友誼農場の典型区候補地の1/10,000の地形図ならびに友誼農場4分場の場部の1/2,000平面図の作成
 - (2) 地下水の継続観測と揚水試験（典型区の2ヶ所）
 - (3) 環境に係る冬季の動植物調査
 - (4) 友誼農場4分場の土壌調査（1/50,000）
 - (5) 補足資料収集

以上の作業仕様ならびに補足資料収集リストは別紙添付のとおりである。国営農場総局はこの依頼を受諾した。中国側は今後の作業を順調に行うために日本側に資金補助を希望した。調査団は中国側の意向を国際協力事業団に伝えることとした。

黒龍江省国営農場典型区農業綜合開発計画調査
第一次現地調査に係る協議議事録

なお、協議出席者は添付の通りである。

この議事録は次の2者の署名により、確認されたものとする。

日本国 国際協力事業団

本格調査団 団長

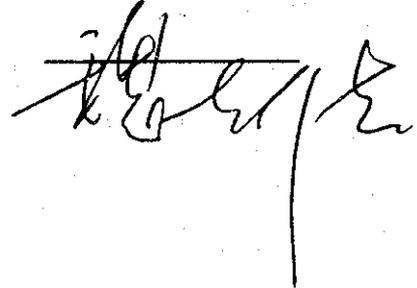
本 間 進



中華人民共和国 黒龍江省

国営農場総局 副局長

魏 克 佳



第一次現地調査説明会議出席者

1. 魏克佳 黑龍江省国营農場總局 副總局長
2. 張振廷 黑龍江省国营農場總局 計画委員会 主任
3. 候培耀 黑龍江省国营農場總局 計画委員会 副主任
4. 高家義 黑龍江省国营農場總局 水利設計処 処長
5. 陳瑞祥 黑龍江省国营農場總局 農墾設計院 副処長
6. 褚炎 黑龍江省国营農場總局 農墾設計院
7. 趙春録 黑龍江省国营農場總局 農墾設計院 工程師
8. 李文芸 黑龍江省国营農場總局 農墾設計院
9. 劉斌 黑龍江省国营農場總局 畜牧処
10. 周建龍 黑龍江省国营農場總局 經濟委員会 科長
11. 常海 黑龍江省国营農場總局 計画委員会
12. 張忠武 黑龍江省国营農場總局 財務処 科長
13. 陳宇華 黑龍江省国营農場總局 外事弁公室 通訳
14. 楊靈芝 黑龍江省国营農場總局

15. 本間進 調査団 団長／総括
16. 松浦広好 調査団 副総括／灌溉・排水
17. 小林康和 調査団 気象・水文
18. 佐々木茂 調査団 地質・地下水
19. 石川尚 調査団 土壌・栽培
20. 市来秀夫 調査団 土地利用・農村計画
21. 保田博 調査団 畜産
22. 池和田寿 調査団 農業機械・農産加工
23. 馬場淳 調査団 農業経営
24. 森丘直人 調査団 農業経済／事業評価
25. 小林誠 調査団 施設計画
26. 宮川美代子 調査団 通訳

黑龙江省国营农场典型区农业综合开发计划调查

第一次現地调查协议

纪要

黑龙江省国营农场典型区农业综合开发计划实施调查团(以下简称调查团),以1992年9月18日签署的实施细则及会议纪要为基础,向承担调查作业的黑龙江国营农场总局提出現地调查报告书,并于10月3日就現地调查报告书的內容进行了说明。而且,根据典型区候补地的选定和实施细则进行了有关现场调查的补充调查以及继续观测的协议。协议中,日中双方确认的主要事项如下:

1. 中国側基本同意現地调查报告书(1)的內容、开发基本方针以及开发战略的设想。

2. 关于典型区候补地的选定,双方同意选定以下地区:

(1) 浓江农场: 第1作业区(场部所在地)和第10作业区。

(2) 友谊农场: 第4分场。

3. 调查团希望国营农场总局做以下現地调查的补充作业:

(1) 浓江农场以及友谊农场的典型区候补地的1/10000地形图以及友谊农场4分场场部的1/2000平面图。

(2) 地下水的继续观测和抽水试验(二个典型区)。

(3) 有关环境的冬季动植物调查。

(4) 友谊4分场的土壤调查(1/50000)。

(5) 补充资料的收集。

以上作业技术要求以及补充资料收集清单,见附件。国营农场总局接受以上要求。为了使下步任务的顺利完成,中方希望

同方在費用上給予資助。調查團要求把中方的要求轉告國際協力事業團。

日本国 國際協力事業團

本格調査団 団長

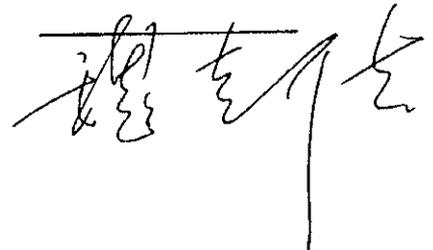
本 間 進



中華人民共和國 黑龍江省

国营農場總局 副局長

魏 克 佳



中 華 人 民 共 和 国
黒 龍 江 省 国 営 農 場 典 型 区
農 業 総 合 開 発 計 画 調 査

中 間 報 告 書 (1)
協 議 議 事 録

1994年3月9日

日 本 国 国 際 協 力 事 業 団
中 華 人 民 共 和 国 黒 龍 江 省 国 営 農 場 総 局

中華人民共和国黒龍江省
国营農場典型区農業総合開発計画調査

中間報告書(1)説明・協議

協議議事録

黒龍江省国营農場典型区農業総合開発計画調査実施調査団(以下調査団と言う)は、1992年9月18日に署名された本件実施に係わる実施細則及び協議議事録に基づいて、調査作業を担当する黒龍江省国营農場総局に中間報告書(1)を提出し、3月7日及び8日の両日に亘り中間報告書(1)の内容について説明を行い、引き続き計画の方針及び技術的内容について協議を行った。協議の中で日中双方が確認した主要事項は以下の通りである。

1. 中国側は、中間報告書(1)で述べられている開発の目的、開発方針、農業総合開発計画の構想について、基本的に同意した。なお、計画の最終取りまとめについて、以下の2点を提言した。

- 1) 本計画の最終取りまとめにおいて中国の技術用語も準用し記述して欲しい。
- 2) 計画実施工程の策定において近期及び遠期目標を明確に設定することを希望する。

2. 技術移転に係わる事項

- 1) 最終報告書説明時に技術移転セミナーの開催を希望する。本件については、今後、現地調査の実施時に調査団と細部の検討を行い計画を詰めることとした。
- 2) 現地調査時の日中共同作業において開発計画手法、最新技術等の技術移転について手引書、参考書等の提供を期待する。

3. 1994年度のカウンターパート研修について1名の増枠を希望する。調査団としては、既に1名の枠が設定されており、今後の増枠は困難な見通しであるが、他のプロジェクトの研修要員のキャンセル等のあった場合に便宜して設けるよう国際協力事業団にお願いすることとした。

4. 中国側は前回の協議において現地調査費の支援についてお願いしてありますが、この件、引き続き検討いただきたい。調査団は、中国側の意向を国際協力事業団に伝えることとした。

この議事録は以下の4者の署名により、確認されたものとする。

日本国国際協力事業団

本格調査団 団長

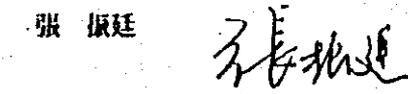
本間 進



中華人民共和国 黒龍江省

国営農場総局 計画委员会主任

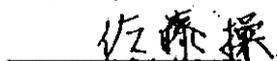
張 振廷



日本国国際協力事業団

作業監理委員会 委員

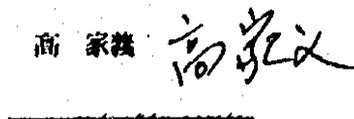
佐藤 操



中華人民共和国黒龍江省

国営農場総局 中方專家団長

高 家義



中間報告書(1) 説明・協議会出席者

中国側

張 振廷	黒龍江省国营農場総局 計劃委員会	主任
常 海	黒龍江省国营農場総局 計劃委員会	經濟師
高 家義	黒龍江 農墾勘测設計院 水利処	処長
陳 瑞祥	黒龍江 農墾勘测設計院 環評処	副処長
李 文芸	黒龍江 農墾勘测設計院 環評処	工程師
趙 春祿	黒龍江 農墾勘测設計院 水利処	工程師
劉 斌	黒龍江省国营農場総局 畜牧処	畜牧師
張 忠武	黒龍江省国营農場総局 財務処	科長
陳 宇華	黒龍江省国营農場総局 外事処	翻譯
周 建龍	黒龍江省国营農場総局 經濟委員会	工程師

日本側

(作業監理委員会)

佐藤 操	総括
美馬 巨人	調査監理

(実施調査団)

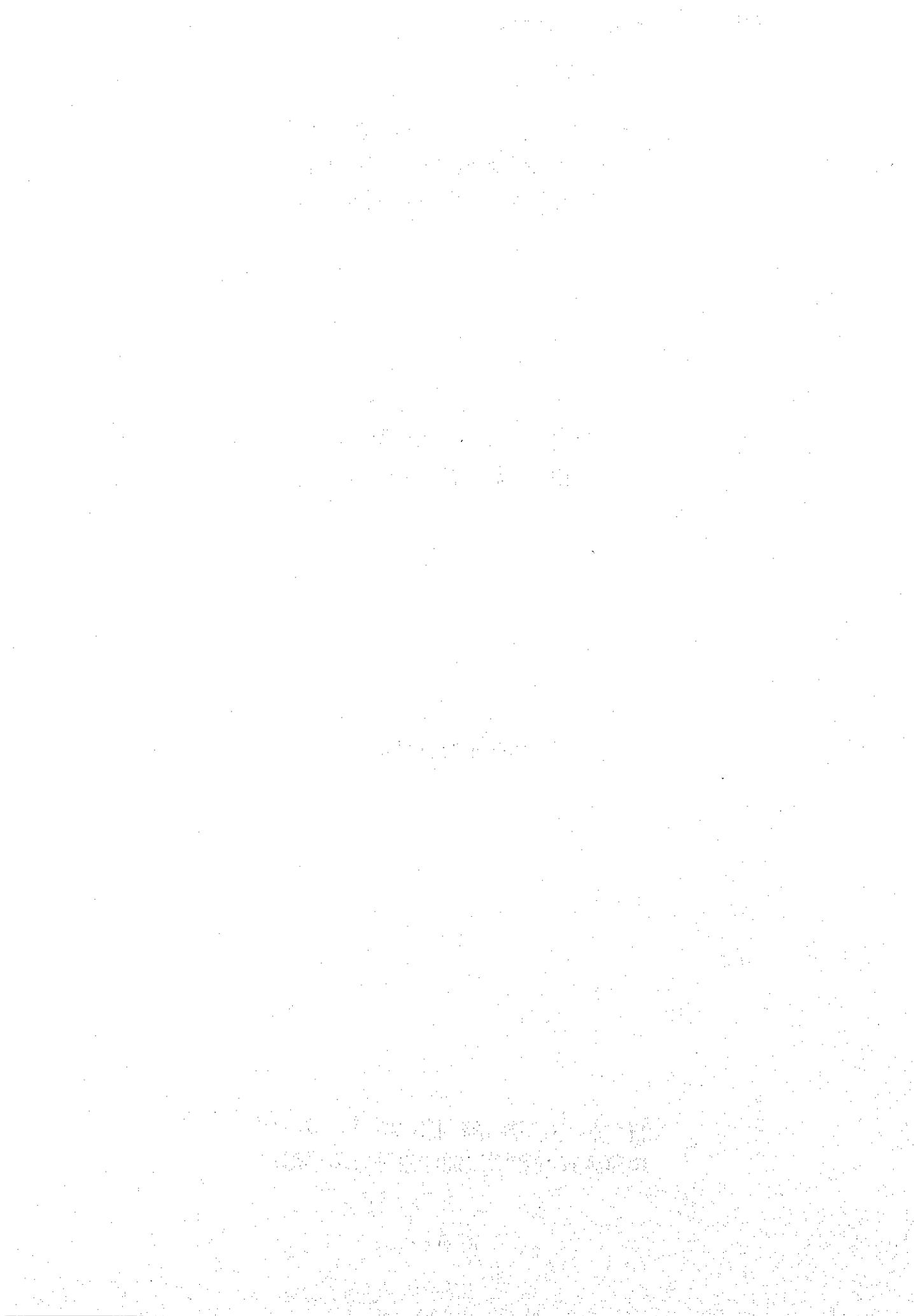
本間 進	団長/総括
石川 尚	団員/土壤・栽培
馬場 淳	団員/農業経営
小林 誠	団員/施設計画
宮川 美代子	団員/通訳
金 環	通訳

中 華 人 民 共 和 国
黒 龍 江 省 国 営 農 場 典 型 区
農 業 総 合 開 発 計 画 調 査

第 二 次 現 地 調 査
協 議 議 事 録

1994年3月18日

日 本 国 国 際 協 力 事 業 団
中 華 人 民 共 和 国 黒 龍 江 省 国 営 農 場 総 局



中華人民共和國 黑龍江省
国营農場典型区 農業綜合開發計画調査
第二次現地調査結果報告と協議

協議議事録

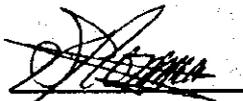
黒龍江省国营農場典型区農業綜合開發計画調査実施調査団（以下調査団と言う）は、1992年9月18日に署名された本件実施に係わる実施細則及び協議議事録に基づいて、黒龍江省国营農場総局（以下総局と言う）に第二次現地調査の結果を取り纏めた現地調査報告書（2）を提出し、3月17日及び18日の両日に亘り現地調査報告書（2）の内容について説明を行い、引き続き、典型区地域の開発計画について調査の基本方針及び技術的内容について協議を行った。協議の中で日中双方が確認した主要事項は以下の通りである。

1. 総局は、現地調査報告書（2）第二章、2.2に記載された内容について基本的に合意した。調査団は、これら総局との合意に基づいて、基本計画最終案を中間報告書（2）として国内作業で取り纏める。総局は、調査団が提示した基本計画最終案の構成内容（現地調査報告書（2）添付資料-3）を基本的に承認した。なお、総局から基本計画最終案を計画対象地域である灤江及び友誼農場各々について分冊で取り纏め、また、夫々の概要書を作成するよう要請があった。調査団は、これを了承した。
2. 総局は、灤江、友誼両農場各々の典型区に関する計画調査並びに開発の基本方針（添付会議資料参照）について基本的に合意した。
3. 調査団は、第一次現地調査時に総局に依頼した地形図作成、地下水揚水試験、土壤調査、環境調査を1994年6月までに完了して欲しい旨要請し、総局はこれを了承した。

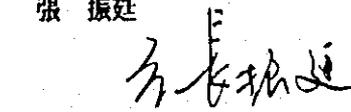
4. 総局から第三次現地調査の当初の予定時期である7～8月は、後半が雨季に当り
道路事情が悪化し現場調査作業が困難になる危惧があるので予定を早め5～6月
から開始するのが望ましいとのとの要請があった。

この議事録は以下の3者の署名により、確認されたものとする。

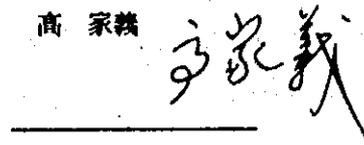
日本国 国際協力事業団
本格調査団 団長
本間 進



中華人民共和国 黒龍江省
国営農場総局 計画委員会主任
張 振廷



中華人民共和国黒龍江省
国営農場総局 中方專家団長
高 家義



現地調査報告書（2）説明・協議会出席者

中国側

張 振廷	黒龍江省 国営農場総局 計劃委員会	主任
高 家義	黒龍江 農墾勘测設計院 水利処	処長
陳 瑞祥	黒龍江 農墾勘测設計院 環評処	副処長
張 忠武	黒龍江省 国営農場総局 財務処	科長
李 文芸	黒龍江 農墾勘测設計院 環評処	工程師
常 海	黒龍江省 国営農場総局 計劃委員会	經濟師

日本側（実施調査団）

本間 進	団長／総括
石川 尚	団員／土壤・栽培
馬場 淳	団員／農業経営
小林 誠	団員／施設計画
宮川 美代子	団員／通訳
金 璟	通訳

中華人民共和國 黑龍江省
国营農場典型区 農業綜合開發計画調査

中間報告書(2) 説明・協議

協議議事録

1994年6月22日

日本国 国際協力事業団
中華人民共和國黑龍江省国营農業総局

中華人民共和国黒龍江省
国営農場典型区農業総合開発計画調査

中間報告書(2)の内容説明と協議

協議議事録

黒龍江省国営農場典型区農業総合開発計画調査団(以下調査団と言う)は、1992年9月18日に署名された本件実施に係わる実施細則及び協議議事録に基づいて、黒龍江省国営農場総局(以下総局と言う)にこれまでの成果をとりまとめた中間報告書(2)

(開発基本計画書(案))を提出し、6月20日、21日の両日に亘り報告書の内容について説明、引き続き総局関係者と技術的事項に係わる協議を行った。また、第1次、第2次現地調査時に総局に依頼していた地図作成作業、地下水、土壌調査等の作業進捗、資料の収集状況及び第3次現地調査に係わるカウンターパート、通訳、車輛等の便宜供与について確認した。協議内容、確認した主要事項は以下のとおりである。

1. 総局は、中間報告書(2)に記載されている現況把握は農場の実情を捉えており、また、開発の基本方針、開発計画についても第1年次の調査において日中双方で協議した事項が全て反映されていることを認め、基本的にその内容に合意した。
2. 総局は、事業評価について農場全体の事業を一括評価しているが、今後、各セクター毎の評価が必要であること、また便益についても経済便益に加えて環境便益、社会便益の面からの評価も必要であると提案した。また開発事業については投資項目毎の投資時期について更に検討する必要があると指摘した。調査団は、この件について今後の調査で十分配慮していくことを表明した。
3. 総局は、開発事業費が大きすぎるのではないかと指摘した。調査団は総事業費の内、予備費、特に長期に亘る事業であるが故に物価予備費が大きな比率を占めている点を説明した。また、建設物価は提供された資料を基にしているものの、水利事業、畜産、農村インフラ、生産支援施設、農業機械等の各部門で事業項目、事業規模、開発の程度等に認識の相違があるのではないかと指摘した。本件については、今後、第3次現地調査の中で、近期、遠期の目標を設定し事業実施計画の策定、事業費に占める内貨、外貨の比率を含めて日中双方でつめていくことで合意した。
4. 濃江農場側から農産加工業の発展について農場発展の基本と考えている旨が表明され、これを基本に農産加工についても再度考慮載きたいと要望があった。調査団は原則として付加価値生産という面から農場側の趣旨に賛成するが、濃江農場の場合、耕地生産規模が小さく、限られた耕地生産環境では加工施設規模も小さくならざるえないこと、周囲に前進農場、勤得利農場等大規模農場があり、これら農場の施設

をまず活用するのが経済的であるので地域全体で考慮されるべきであるとの見解を述べた。濃江農場側は、この件に関して更に意見交換を願う旨表明し、調査団もこれを了解した。

5. 調査団は、総局側に依頼していた調査の進捗につき以下のとおり確認した。

地形図作成（1万分の1）	：作成完了
地下水揚水試験	：友誼農場については試験中、濃江農場については今月中の終了を予定している。
水質試験	：地表水は完了、地下水は分析中
土壌（友誼農場のみ）	：サンプリングを終り、分析中
動植物調査	：完了

また、総局は、第1、第2次調査で依頼した各種資料についても既に収集済みであると説明した。収集資料の内容については各担当者レベルで確認することで双方了解した。

6. 調査団は、カウンターパートの任命及び通訳の調達を依頼した。総局は、カウンターパートについては既に配置しており、前回までの調査と同メンバーで対応することを約束した。通訳については調査団が求めるレベルの通訳が極めて少なく苦慮している旨表明した。調査団は、英語の通訳でも支障ないと表明、総局は通訳を確保するようさっそく手配することを約束した。

7. 総局及び調査団は、国際協力事業団（JICA）が提供している調査用資機材（車輛、測量機材、雨量計等）は調査完了まではJICAの所有であり、総局に貸与しているものである旨再確認した。調査団は第1次調査で要望のあった追加測量資機材等を今回持参したことを報告した。なお、測量用プリズムと三脚が北京空港通関当局にボンドされており、農業部が通関手続きのため対応することになっているので、総局側も農業部と連絡を取り通関手続きをスムーズに行うよう要請した。

8. 第2次現地調査時に協議された技術移転セミナー開催の件について、11月下旬の最終報告書（案）説明時、佳木斯で行うこととし、2日間程度をセミナーにあてることで双方合意した。セミナーの内容については、できるだけ総局側の希望に添えるように図りたいとの考えから総局に検討するよう依頼した。

9. 総局は調査予算が乏しい状況から、前回資金的支援について検討を要請していた。調査団は、本調査が「実施細則」に基づいて実施されるのが原則であること、また、日本の国家予算が現在まだ審議中であり本調査団の予算も暫定予算に拠っていることから、対応が難しい旨説明した。

この議事録は、以下の4者の署名により確認されたものとする。

日本国国際協力事業団
中華人民共和国事務所
藤谷 浩 至

藤谷浩至

中華人民共和国黒龍江省
国营農場総局計画委员会主任
張 振 廷

張振廷

日本国国際協力事業団
本格調査団団長
本 間 進

本間進

中華人民共和国黒龍江省
国营農場総局中方專家団長
高 家 義

高家義

中間報告書(2) 説明・協議会出席者

中国側

馬 学利	黒龍江省 国营農場総局	副総局長
張 振廷	黒龍江省 国营農場総局 計劃委員会	主任
候 培耀	黒龍江省 国营農場総局 計劃委員会	副主任
常 海	黒龍江省 国营農場総局 計劃委員会	経済師
高 家義	黒龍江 農墾勘測設計院 水利処	処長
諸 炎	黒龍江 農墾勘測設計院 水利処	高級工程師
陳 瑞祥	黒龍江 農墾勘測設計院 環評処	副処長
李 文芸	黒龍江 農墾勘測設計院 環評処	工程師
劉 斌	黒龍江省 国营農場総局 畜牧処	畜牧師
張 忠武	黒龍江省 国营農場総局 財務処	科長
周 建龍	黒龍江省 国营農場総局 經濟委員会	工程師
呉 居沛	濃江農場	書記
柳 景泉	濃江農場	副場長
時 培嶺	濃江農場	科長
楊 靈芝	黒龍江省 国营農場総局	翻訳

日本側

國際協力事業団中華人民共和国事務所

藤谷 浩至

実施調査団

本間 進	団長／総括
松浦 広好	副総括／灌漑・排水
佐々木 茂	地質・地下水
石川 尚	土壌・栽培
保田 博	畜産
馬場 淳	農業経営
小林 誠	施設計画
鈴木 越暢	環境
宮川 美代子	通訳
山下 智子	通訳
金 景	通訳

中华人民共和国黑龙江省 国营农场典型区农业综合开发计划调查 中间报告书(2)的内容说明和协议 会议纪要

黑龙江省国营农场典型区农业综合开发计划调查团(以下称调查团),根据1992年9月18日签署的与本件实施有关的实施细则及会议纪要,向黑龙江省国营农场总局(以下称总局)提出以汇总以前的成果为内容的中间报告书(2),用6月20日、21两天对报告书的内容进行了说明,并继续与总局有关人员及有关技术性事项进行协议,对在第一次、第二次现场调查时委托总局方面进行的地图制作、地下水、土壤调查等工作的进展情况、资料收集情况及与第三次现场调查有关的专家、翻译、车辆等的提供情况进行了确认。

协议内容、确认内容有以下主要事项:

1. 总局认为,中间报告书(2)反映了农场的实际情况。在开发基本方针、开发计划方面也全面反映了在第一年度的调查中,中日双方协议过的事项。对其内容基本上取得了一致意见。
2. 总局提出,项目评价只是对农场总体项目进行了总体评价,今后有必要对各项目分别进行评价。效益方面也有必要从经济效益、环境效益、社会效益方面进行评价。调查团表示,总局所提出的以上内容是在可研阶段都得做的,将在今后的调查中做充分研究。
3. 总局提出项目总投资是否过大。调查团就此解释说,总投资中预备费所占比例大,特别是由于项目时间长,物价预备费所占比例大。建设物价是用总局提供的资料计算的,但在水利事业、畜产、农村基本设施建设、生产服务设施、农业机械等各部门的事业项目、事业规模、开发的程度等方面的认识存在差异。双方同意就以上问题将在第三次现场调查中,通过中日双方共同研究,制定近期及远期目标、事业实施计

划及项目总投资中的内币和外币的比例。

4. 浓江农场方面认为，农产品加工业的发展是农场发展的基础，希望日方以此为基础，再次考虑农产品加工业的项目。调查团从提高附加价值的角度，原则上同意农场方面的意见，但同时认为，浓江农场耕地生产规模小，在有限的生产环境里加工设施规模也不得不小。再加上周围有前进、勤得利农场等大农场，首先充分利用这些农场的设施是较经济的，调查团认为该问题应作为一个地域经济来考虑。浓江方面也表示要就这点进一步交换意见。调查团也表示理解。

5. 调查团委托总局方面进行的调查，进展情况确认如下：

地形图（1万分之1）：完成

地下水抽水试验：友谊农场试验正在进行中。

浓江农场预定本月下旬完成。

水质试验：地表水已完成。地下水正在化验中。

土壤（友谊农场）：抽样结束，正在化验中。

动植物调查：完成。

总局介绍在第一次、第二次调查中受调查团委托的各种资料已收集完了。双方同意就收集资料的内容，由双方专家再进行确认。

6. 调查团要求总局配备中方专家和翻译。对此，总局表示专家已配备完毕，中方专家名单与以前一样。关于翻译的问题，总局表示，很难找到调查团所需水平的翻译。调查团表示英语翻译也可以，总局表示尽快配备。

7. 总局及调查团再次确认了JICA提供的调查用器材（车辆、测量器材、雨量计等）是在调查期间归JICA所有，借给总局使用的。调查团通知总局第一次调查时总局要求补充提供的测量仪器等器材，这次已带来了。另外，测量用三棱镜及三脚架保留在北京机场海关，将由农业部办理过关手续。调查团要求总局方面与农业部联系顺利办好手续。

8. 关于第二次现场调查时协议的技术交流研讨会

问题，双方同意在11月下旬(说明最终报告书草案)时，在佳木斯举行为期二天左右的研讨会。调查团要求总局就研讨内容进行研究，以便研讨会内容能满足总局要求。

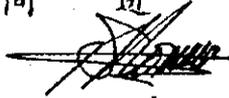
9. 由于总局调查经费支出很大，要求日方研究资助。就此调查团表示本调查的原则是以[实施细则]为基础进行的，且日本国家预算现在还在审议中，调查团的预算也是用暂定预算，因此很难答复。

本纪要由以下四人签名确认。

日本国国际协力事业团
中华人民共和国事务所
藤谷 浩至

藤谷浩至

日本国国际协力事业团
本格调查团团长
本间 进



中华人民共和国黑龙江省
国营农场总局计划委员会主任
张 振 廷

张振廷

中华人民共和国黑龙江省
国营农场总局中方专家团长
高 家 义

高家义

一九九〇年六月十二日

中間報告書 (2) 説明・協議会出席者

中国側

馬 学利	黒龍江省 国营農場総局	副総局長
張 振廷	黒龍江省 国营農場総局 計劃委員会	主任
候 培耀	黒龍江省 国营農場総局 計劃委員会	副主任
常 海	黒龍江省 国营農場総局 計劃委員会	経済師
高 家義	黒龍江 農墾勘测設計院 水利処	処長
諸 炎	黒龍江 農墾勘测設計院 水利処	高級工程師
陳 瑞祥	黒龍江 農墾勘测設計院 環評処	副処長
李 文芸	黒龍江 農墾勘测設計院 環評処	工程師
劉 斌	黒龍江省 国营農場総局 畜牧処	畜牧師
張 忠武	黒龍江省 国营農場総局 財務処	科長
周 建龍	黒龍江省 国营農場総局 經濟委員会	工程師
吳 居沛	澆江農場	書記
柳 景泉	澆江農場	副場長
時 培嶺	澆江農場	科長
楊 靈芝	黒龍江省 国营農場総局	翻訳

日本側

国際協力事業団中華人民共和国事務所

藤谷 浩至

実施調査団

本間 進	団長／総括
松浦 広好	副総括／灌漑・排水
佐々木 茂	地質・地下水
石川 尚	土壌・栽培
保田 博	畜産
馬場 淳	農業経営
小林 誠	施設計画
鈴木 超暢	環境
宮川 美代子	通訳
山下 智子	通訳
金 景	通訳

中華人民共和國 黑龍江省
国营農場典型区 農業綜合開發計画調査

現地報告書 (3) 説明・協議

協議議事録

1 9 9 4 年 8 月 2 3 日

日本国 国際協力事業団
中華人民共和國 黑龍江省 国营農業總局

中華人民共和国黒龍江省
 国营農場典型区農業総合開発計画調査

現地調査報告書(3)の内容説明と協議

協議議事録

黒龍江省国营農場典型区農業総合開発計画調査団(以下調査団と言う)は、1992年9月18日に署名された本件実施に係わる実施細則及び協議議事録に基づいて、黒龍江省国营農場総局(以下総局と言う)に第3次現地調査結果をとりまとめた現地調査報告書(3)(典型区開発実施計画)を提出し、8月22日、23日の両日に亘り報告書の内容について説明、引き続き総局及び農場関係者と技術的事項に係わる協議を行った。また、最終報告書(案)説明時に2日間程度の日程で技術移転セミナーを開催することに関して、セミナーの内容等協議した。協議内容及び双方で確認した主要事項は以下のとおりである。

1. 総局、濃江農場並びに友誼農場は、典型区開発に対する大きな期待を表明し、現地調査報告書(3)に記載されている開発目標、開発基本方針、開発計画等の内容については基本的に合意した。
2. 濃江農場より開発後の生産活動に対する流動資金(営農資金)の手当ての問題、一部キャタピラー型トラクターの導入、勤得利農場から独立する前に無計画に建設された水路の埋め戻し・整地等に関し、本計画で取り扱うよう要望が出された。調査団はこれらの項目に対する対処方針、考え方を説明し、濃江農場側は了解した。
3. 友誼農場より農業機械更新の投資額、水産開発等の投資額が大きすぎる、農産加工の投資額が少ない、農業生産量・生産価格が高く、農業資材価格が低い等の事業費及び価格に関するコメントが出された。また、農村インフラ整備に関連して将来想定人口が多すぎる、全員を場直に住まわせるのは実情に合わない等のコメントが出された。
 調査団はこれらの点につき、計画の内容、対処処置を更に詳しく説明した。経済分析、財務分析については、最終報告書(案)により分かりやすく記し、且つ細部の内訳が明確に参照できるよう計算書等を添付することを約束した。
4. 総局より以下のコメント及び要望事項が出された。
 - ① 全体経済評価だけでなく、各計画個別についても経済評価が必要である。
 - ② 自己資金調達能力に配慮し事業費に占める外貨分を60%以上にしてほしい。
 - ③ 最終報告書には、勧告として、「今後、詳細設計等において、更に調査・検討を行ない、実質的且つ実情に即した計画に修正する課題が残っている」旨明記して

欲しいと要望した。

調査団は、①、③点について同意し、②については今後細部を検討、できるだけ期待に添えるよう努力する旨応え、総局はこれに同意した。

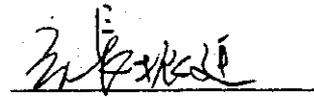
5. 調査団側より総局に日本側に期待するセミナーの講演内容に付き早急に詰めるよう要求し、総局は同意した。

この議事録は、以下の4者の署名により確認されたものとする。

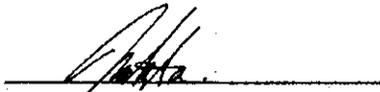
日本国国際協力事業団
本格調査団団長
本 間 進



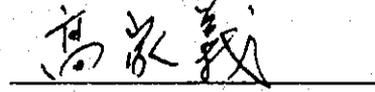
中華人民共和国黒龍江省
国营農場総局計画委员会主任
張 振 廷



日本国国際協力事業団
本格調査団副団長
松 浦 広好



中華人民共和国黒龍江省
国营農場総局中方專家団長
高 家 義



中华人民共和国黑龙江省
国营农场典型区农业综合开发计划调查
现场调查报告书(3)的内容说明和协议

纪 要

黑龙江省国营农场典型区农业综合开发调查团(以下简称调查团),根据1992年9月签署的有关本项目实施的实施细则和纪要,对第3次现场调查结果进行了整理,并将整理后的现场调查报告书(3)即典型区开发实施计划提交给了黑龙江省国营农场总局,于8月22日、23日两天就报告书的内容进行了说明,然后就有关技术性的事项和总局、农场有关人员进行了会谈,另外还对说明最终报告书时利用二天时间召开技术交流研讨会的内容等进行了协商。协议内容及双方确认的主要事项如下:

1. 总局、浓江农场及友谊农场表示对典型区开发报有很大希望,基本同意了现场调查报告书(3)中的开发目标、开发基本方针、开发计划等内容。
2. 浓江农场希望在本计划中,就开发后生产活动中的活动资金(农业生产费)、链轨式拖拉机和轮式拖拉机的配备比例、平整从勃得利农场独立前无规划地建设的水渠所需要的费用问题,给予考虑处理。调查团对这些问题的相应处理方针、想法进行了说明,浓江农场对此表示理解。
3. 友谊农场指出了本计划书中农业机械更新的投资额偏高,水产开发投资额偏高、农产品加工投资额少,粮食产量及价格高,畜牧业产资料价格低等有关成本费用和价格方面的疑问,另外还指出了关于农村基本建设项目中,对将来的人口估算过多,让全部人口集中居住在场直不符合实际等意见。

对于这些问题,调查团就计划的内容,相应的处理进一步地做了

详细说明，并表示把经济分析和财务分析部分详细、易懂地编写在最终报告书(草案)里面，而且把各细节部分的明细做为附件附在后面，以便对照、参考。

4、总局方面提出以下意见和要求：

- ①、不仅要对项目进行整体评价，而且有必要对各计划分别进行经济评价。
- ②、考虑自筹资金的筹备能力问题，希望外币占项目费用的比例在60%以上。
- ③、在最终报告书中做为说明，写上“今后在可行分析、详细设计时，还要进一步进行调查研究，对计划还应进行修整完善，使其内容更切合实际”。

调查团同意了第①、②项意见，关于第③项建议，表示今后还要对此做更细致地研究，争取尽量满足要求，总局对此表示同意。

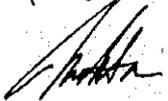
5、调查团提出希望总局尽早提供技术研讨会中期待日方专家讲演的内容，总局表示同意。

本协议纪要由以下四名签字、确认。

日本国国际协力事业团
正式调查团团长

本间 通

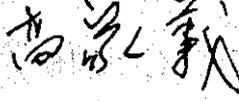

日本国国际协力事业团
正式调查团副团长

松浦 広子


中华人民共和国黑龙江省
国营农场总局计划委员会主任

方长根 延


中华人民共和国黑龙江省
国营农场总局中方专家团长

高崇 毅


中 華 人 民 共 和 国
黒龍江省国营農場典型区
農業総合開発計画調査

最終報告書(案)
協議議事録

1994年11月23日

日 本 国 国 際 協 力 事 業 団
中華人民共和国黒龍江省国营農場総局

中華人民共和國 黑龍江省
国营農場典型区農業綜合開發計画調査
最終報告書（案）の説明と協議

協議議事録

黒龍江省国营農場典型区農業綜合開發計画調査実施調査団（以下調査団と言う）は、1992年9月18日に署名された本件実施に係わる実施細則及び協議議事録に基づいて、黒龍江省国营農場総局（以下総局と言う）に最終報告書（案）30部を提出し、1994年11月21日及び22日の両日に亘り報告書（案）の内容について説明を行った。

引き続き、典型区地域の開発計画最終案の内容について協議を行い、最終報告書（案）の内容について日中双方は基本的に合意した。

協議の中で日中双方が確認した主要事項は以下の通りである。

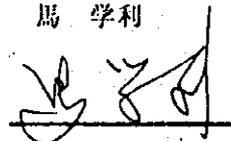
1. 総局から環境保全対策事項について更に情況説明を追記して欲しいとの要請があった。調査団はこれを了承し、最終報告書の作成の中に国营農場地域に於ける農業開発が環境問題に対し十分配慮されている旨記述することを約束した。
2. 最終報告書（案）の内容につき、さらにコメントがあれば、1か月以内に、国際協力事業団中国事務所宛書面でコメントを出すことを確認した。
3. 調査用機材については既に譲与の要請書を提出しているが、中国側より再度譲与の要請があった。調査団としてはこの意向を日本国政府に伝える旨、伝えた。

この議事録は以下の4者の署名により、確認されたものとする。

日本国 国際協力事業団
実施調査団 団長
本間 進



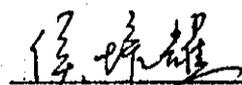
中華人民共和國 黒龍江省
国营農場総局 副局長
馬 學利



日本国 国際協力事業団
現地作業監理調査団 総括
酒井 豊



中華人民共和國黒龍江省
国营農場総局 計画委員会 副主任
侯 培耀



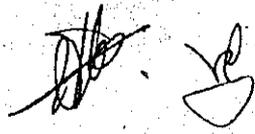
最終報告書(案) 説明・協議出席者

日本側(説明・協議調査団)

本間 進	総括／組織・諸制度
松浦 広好	副総括／灌漑・排水
森丘 直人	農業経済・事業評価
宮川 美代子	通訳
金 景	通訳
酒井 豊	現地作業監理調査団 農林水産省畜産局家畜生産課
魚屋 将	JICA農林水産開発調査部農業開発調査課 調査監理

中 国 側

馬 学利	黒龍江省国营農場総局 副総局長
候 培耀	黒龍江省国营農場総局 計画委員会 副主任
楊 健	黒龍江省国营農場総局 計画委員会 科長
蔣 華	黒龍江省国营農場総局 計画委員会 科長
常 海	黒龍江省国营農場総局 計画委員会 経済師
高 家義	黒龍江省農墾勘测设计院 処長 高級工程師
陳 瑞祥	黒龍江省農墾勘测设计院 副処長 高級工程師
諸 炎	黒龍江省農墾勘测设计院 高級工程師
李 文芸	黒龍江省農墾勘测设计院 工程師
劉 斌	黒龍江省国营農場総局 畜牧処 科員
柳 景権	濃江農場 副場長 工程師
時 培嶺	濃江農場 計画科長 助理工程師
白 迎科	友誼農場 書記
邻 實	友誼農場 副場長
趙 廣民	友誼農場 第四分場 分場長
劉 士富	友誼農場 財務科
朱 玉貴	友誼農場 計画科
陳 宇華	総局外事弁公室 通訳


酒井 信

中华人民共和国黑龙江省
国营农场典型区农业综合开发计划调查
最终报告书（草案）的说明和协议
会谈纪要

根据1992年9月18日签署的本调查实施细则及会谈纪要，黑龙江省国营农场典型区农业综合开发计划调查实施调查团（以下简称调查团）向黑龙江省国营农场总局（以下称总局）提交了30份最终报告书（草案）并于1994年11月21日、22日两天就报告书（草案）的内容进行了说明。然后就典型区的开发计划最终草案的内容进行了协商，日中双方基本同意最终报告书（草案）的内容。

通过洽谈，双方确认主要事项如下：

1、总局提出希望报告书中增加一些有关环境保护的内容，调查团对此表示理解同意在编写最终报告书时，将国营农场地区农业综合开发的有关环保问题加以详细叙述。

2、商定如果中方对最终报告书（草案）的内容有何意见，在一个月之内，以书面形式向国际协力事业团中国事务所提出。

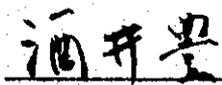
3、关于调查用器材，中方已提交过申请明细，这次洽谈中再次提出了申请。调查团表示将此意转告给日本政府。

本会谈纪要由以下四名人员签字确认。

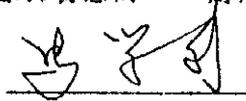
日本国际协力事业团
实施调查团 团长



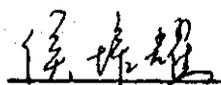
日本国际协事业团
现场作业监理调查团 总括



中华人民共和国黑龙江省
国营农场总局 副局长



中华人民共和国黑龙江省
国营农场总局计划委员会 副主任



JICA